

# 新型ウイルスに感染した 渋沢栄一

宮本孝一  
老年学情報センター

櫻園通信 62 令和3年1月  
東京都健康長寿医療センター  
養育院・渋沢記念コーナー  
連絡先: 老年学情報センター



二〇一九年の冬に中国で感染が確認されて以来、新型コロナウイルスは、世界中に広がりパンデミック（世界的大流行）となりました。（世界的大流行）となりました。人に病気をもたらすコロナウイルスはそれまで六種類だけでした。それらとは違う遺伝子・形・性質をもったコロナウイルスが出現して人間に病気を引き起こしているため「新型」と呼ばれています。ウイルスは人や動物の細胞を使って自分のコピーを作り増殖します。このときウイルスの遺伝子がうまくコピーされず、少し違う遺伝子をもつウイルスができることがあります。

これを変異といいます。遺伝子がウイルスの性質を変えるほど大きく変化し、その新しい性質がたまたま感染拡大に有利なものだった場合は感染が広がることとなります。新型コロナウイルスも、もとはほかの特定の動物に感染していたコロナウイルスが、変異により人間に感染するウイルスになったと考えられています。しかしまだその起源は判明していません。毎年冬に流行するインフルエンザも、ウイルスによる病気です。インフルエンザウイルスも変異しつづけているため、流行するウイルスの遺伝子・性質も毎年変わります。

今から百年前、恐しい性質をもつ新型インフルエンザ・ウイルスが出現しました。

四十度を超える高熱・頭痛・筋肉痛、肺炎、耳や鼻からの出血、肺に水がたまる（肺水腫）、そして数日で死に至るインフルエンザです。犠牲者のほとんどは健康な若者で、致死率は通常のインフルエンザの二十倍以上でした。

新型インフルエンザは一九一八（大正七）年の春にアメリカで流行した後ヨーロッパで広がりました。当時は第一次大戦の最中で、参戦していた国は感染を隠していましたが中立国のスペインの流行が報道され、「スペイン風邪」と名づけられました。スペイン風邪は夏になると収まり、寒くなると復活。結局3回大流行を起こしました。スペイン風邪は、一九一八年の八月末から日本でも大流行が始まりました。新聞記事では山間部で「感冒のため一村全滅」という報道も見られるような状況でした。

一二月にはやや流行が収まりましたがその時点での感染者数は国内総人口の約四〇％に当たる人数でした。翌年の春、渋沢栄一もこの恐いウィルスに感染してしまいました。

その時の記録が残っています。カタカナをひらがなに書きかえ、改行や付記、濁点を加えています。一部漢字をかな表記にしています。

(略) は原著でも略になっています。

渋沢栄一日記 大正八年(渋沢子爵家所蔵)

三月二日

(略) 三月一日より四月三十日までの日誌は、前記の如く大患に罹りしため詳悉するをえず、よって病間殊に記憶するものを左に記載して他日の参考に供すと云爾(うんじ・しかいう)強調 ※他日の参考に供すこととする、ぐらゐの意味が。

(略) 十日はかつて渡来せるジユエー博士の歓迎会、姉崎博士近く仏国へ渡航につきその送別の宴を開催のはずなりしも、病中につき延期し、

来る十七日と定めたり。けだしそのこのに至りなば病も快方と予期せしも、ついに当日も出席するを得ざりき。

十七日阪谷男爵・姉崎博士来話、けだし当日はジユエー博士の歓迎と送別との宴会につき、阪谷男には余に代りて来賓に接伴し饗応に尽力せられんことを請い、姉崎博士には渡仏後の注意につき平日の企望を陳述す。

時に病いまだ愈えず苦悶強くして談話意の如くならず。幾回となく氷片をもつて口中を潤してようやく意見の幾分を述べるを得たるなり。

而して(しこうして)そして)そのため熱度五・六分を増したるを見れば、いかにその日の談話の苦痛なりしやを知る得べし。

二十三日姉崎博士再び来りて明日発足の由を告げらる。よつて我が使節及随行の人士への伝語または米国及英仏なる知人への音信等をたくす。

(略)

【伝記史料 注】栄一、この年三月一日より四月末にいたる間、流行性感冒により病床にあり。

このとき渋沢栄一は七九歳。ひどく具合が悪くて人と話すのもつらいのに、口に氷を入れてなんとか対話しようとする様子が書かれています。無理をしたらためそのあとすぐ熱が上がってしまいました。渋沢栄一はスペイン風邪で二カ月近くも病床に伏していたんですね。

記録の原文は渋沢栄一の日記で、「渋沢栄一伝記史料」第四 十巻 三三六、三三七ページに転載されています。

「渋沢栄一伝記史料」の本文はインターネットで公開されています。

